

## 新春座談会

1月号座談会の後半をお楽しみください。

### <座談会メンバー>

山本 真紀  
日本赤十字社香川県支部

岩本 ひとみ  
三豊市女性消防団

巻野 恵  
香川県災害派遣福祉チーム

岩崎 シゲ子  
川西地区自主防災会女性部

藪根 正浩  
香川県危機管理課

司会進行：かがわ自主ぼう連絡協議会 岩崎正朔

#### 【岩崎会長】

それでは、これから町づくりも含めて防災を通じてやってみたいことや、想いについて聞かせていただけたらと思います。組織としてではなく自分自身の考えでも構いませんし、夢みtainな話でも構いません。

#### 【山本氏 日本赤十字社香川県支部】

私は防災の担当をメインとしているわけではなく、講習や奉仕団担当としての活動もしています。そのなかで、赤十字としてやはりボランティアさんの力を強く感じます。防災に関しても防災ボランティアの方がたくさんいます。年に2回香川県支部で誰でも参加できる防災ボランティアの研修を開催しています。その中で炊出しや、けがの手当など、実際にボランティアとして活動する内容を研修で実践的に行っていま



す。皆さんが意識を高く持って研修に参加してくれているので、本当にボランティアさんはすごいなと思っています。

また、ボランティアの方の中にいろいろな災害発生時、支援にいった経験があり、訓練の時もベテランのボランティアさんが職員と協力して初めての参加者に指導してくれています。ボランティアの方々と一緒に防災のイベントでも関わるようになって本当にありがたい存在だなと思っています。

また、地域の奉仕団、岩崎さんが会長をしている丸亀でもお世話になっているのですが、各市町の地域の奉仕団の皆さんと連携して地域包括ケアの普及を目指して講習を行うなど赤十字として取り組んでいます。健康生活支援講習のチラシを作って広報していますが、そのなかでも依頼が多いのは、「災害への備え」についてです。いつまでも元気でいられるように、いうことで健康寿命を伸ばすための講習依頼も多いですけど、やっぱり「災害の備え」っていうところの講習依頼がすごく多いです。

赤十字では、防災についていろんな切り口から講習を行っています。防災セミナーでは社協や气象台の方などと連携して、炊き出し訓練や避難所運営などを半日から一日コースとして実施しています。健康生活支援講習の中では高齢者の方は災害が起きた時、避難所生活でどのような事がころや体に影響を及ぼすのかを知っていただくとともに、実際に身近にあるもので物を作ってみます。風呂敷2枚使ってリュックを作ったり、新聞紙で足カバー作ったり、毛布やタオルケットをガウンのように着てみるなど、受講者さんと一緒にいろいろ実技をやってみる。そういう体験はみなさんすごく楽しんでされています。

親子対象での講習時には、子供も楽しんで実技をしています。災害時は子供もストレスによって心や体に大きな影響を及ぼすことを説明しています。私は、地域のみなさんに楽しく講習を受けてもらい、防災減災の内容について、もっと多くの方に知っていただきたいと思っています。

もう一つは、地域との繋がりが重要だと感じています。やはり、災害が起こると、自助と共助と公助の連携が重要になってきます。川西地区のフジグランでの訓練に参加させていただいた時に、買い物客など地域の皆さんが訓練に参加していて本当にすごいなと思いました。他の地域にも、地域での避難訓練にいきますが、訓練に参加するのは高齢の方ばかりで若い人が家族連れで参加してくれる方が少ない、という地域の人の声をよく聞きます。朝の挨拶だけでもいいから、普段から近所の子どもや若い人たちと顔の見えるつながりを持っておくことが、災害時の共助、お互いの助け合いのきっかけになると思います。また、地域の外国人の方とも連携を取ることで、災害時に支援してくれることもあると思います。こうした、防災講習や地域活動を通して、顔の見える関係が地域で少しずつ広がっていき、それが防災減災につながっていったらいいなと思います。これから、私ができることとして講習会を通して、いろいろな人に平日頃からの防災の準備について意識を持っていただけるような活動をしていきたいと思っています。

最後をお願いなのですが、私が所属している赤十字が危機感を持っているのは、皆様からの寄付金が減少していることです。赤十字は皆様からの寄付で活動資金をいただいております。皆様からの寄付

金が年々減少しており、赤十字の活動ができなくなるのではないかと、職員一同が身に染みて感じている所です。赤十字がこれからも社会貢献を続けていくために、ぜひともご支援をいただけたらと思います。

**【岩本氏 三豊市消防団女性部】**

今回、座談会に呼んでいただいたきっかけとなったのが、先日岩崎会長と一緒に活動した防災訓練です。防災訓練を実施して最後に岩崎会長の方から、ストーリー性があるってすごく良かったというお声をいただきました。

訓練にストーリー性を持たすことを、1番すごくこだわりを持っていて、私たちが指導的立場に立つのではなく、地域の皆さんに対して消防団として何が出来るのかを常に考えて活動を開始するようにしています。



防災について、子どもだったらどんなことに興味があるのだろうか、お年寄りを対象とするときは、どういう話をするに興味を持っていたか、常に考えて活動をしていましたので、岩崎会長から言っていただいた一言がすごくうれしかったです。

現時点の消防団は、男性の立ち位置がすごく確立されていますが、女性の立場はまだオブザーバー的なところでしかないという風に言われている状態で、消防団での女性の立場をもう少し確立していきたいな思っています。

それと今、三豊市消防団もそうですが、消防団員は消防活動がメインだと言われていますが、全国的に見てももっともっと防災に力を入れていってもいいのではないかと考えています。そのためには、私たちも地域住民の方も防災にもっと興味を持っていただきたいと思っています。今回の座談会でお仲間になれました皆様にもイベントの時に来ていただいて自分たちがしていることをぜひ発揮していただけたらというのが望みでもあります。今回、岩崎会長に繋いでいただいたので、ぜひ今後も皆さんとチームになって何かできたらいいなと私的には思っています。

**【岩崎シゲ子氏 川西地区自主防災会女性部】**

ぜひ、参加させてください。また、私たちの訓練にも参加してください。

**【巻野氏 香川県災害派遣福祉チーム】**

DWAT もぜひ参加させていただいたらと思います。

私も9月3日の、大規模災害訓練である香川県の総合防災訓練に参加させていただいた時に、自主防災組織の方や看護師の方と避難所の設営や受付訓練を行ったのですが、相互の連携の仕方を初めて実際に体で感じる事ができました。DWATはDMATの福祉版

として、介護福祉士や社会福祉士、精神福祉士、保育士が所属しており、そういった福祉の目線で避難所等での生活をより良くする活動をしています。二次災害を防ぐために、避難所で生活されている方で、福祉施設につないだほうがいい方には福祉施設につなぐといったことも務めたりしていますが、まだまだ結成して日が浅い組織なので、地域の皆さんに知ってもらうためにも、チラシ等を作成して広報も行っている所です。



まだまだ経験が浅いチームなので、勉強はもちろんですが、実際に災害現場に行ったときに、医者や保健師の方と連携が重要と頭ではわかっていますが、私自身被災地での経験があまりないので、想像ができないところも多くあります。私個人としては、大きい体育館で実際に避難所での疑似体験訓練みたいなのを、積み重ねてやっていきたいと思います。また、災害支援活動を経験している人の話を聞いたり、映像を見たりして、災害に対する気持ちを高めて、いざという時に動けるようにしていきたいです。

#### 【岩崎シゲ子氏 川西地区自主防災会女性部】

私たちは、まだ香川県でも防災組織が立ち上がっていない地域への支援も行っています。約10年前に会長から言われて、綾川町の自治会長さんの所へ、自主防災活動の啓発に伺いました。そしたらその自治会長さんが「うちの地区には津波は来ない、山崩れもない、何の災害の心配があるんや。スコップ置いとるからいいでないか。」と言って、話を聞いてくれませんでした。私はそこで負けたらいけないと思い「そうですね。津波来ない山崩れもない。だけど、竜巻はどこから来るかわからんから、竜巻に対しての備えが必要なんです」といって、防災の必要性について話を聞いてもらいました。活動を始めた頃は、自治会に自主防災活動の説明に行っても、何回も断られてつらかったです。

私はいろいろなところで、自主防災活動を行ってきましたが、その中で炊き出しが一番大切だと感じます。熊本県に被災地支援を行ったときは9日間で8,000食の炊き出しを行いました。その時感じたのは、被災地の皆さんが、気持ち的に手伝えないのもあるのだと思いますが、私たち以外に炊出しを手伝う人がいないことです。支援物資がないわけではなくて、その時も、ハウレンソウやトマトなどいろいろな食材が届いていますが、それを調理しようとする人がいないのです。だから私は、5~6人で集まって話をしながら炊出しをするようにしています。温かい食事が大事なので、鍋に水を沸かして、味噌があれば味噌、なければ醤油で温かいもの物を作るようにしています。なので、私は、いろいろな地域に活動に行ったときに、必ず炊出しをどのようにしているか聞くようにしています。そして、小さい鍋でも構わないから温かい食事の提供の重要性について広めていきたいと思っています。

また、私たちが炊出しをするときはいつも薪炊きで行うようにしています。災害時にはライフラインが止まる可能性があるため、薪で炊出しを行うことは重要だと感じています。なので、ご飯を炊くのも薪、お汁も薪、避難訓練した後にふるまう飴湯をつくるのも全部薪で行っています。最近参加した防災イベントの中で炊出しをしたのですが、約10年ぶりにガスで炊出しを行いました。その時は、とても風が強い日で炊出しを行っているテントの中にも風が吹き込んでいました。すると、ガスコンロの火が風で揺らいで、鍋まで火が届かなくてなかなか沸騰しなくて大変困りました。薪炊きであれば、薪を積み上げていけば火が届きますが、ガスコンロではそれができないことに気づかされました。東北・熊本の炊出しを思い出し、ブロックを置きその上にガスコンロを載せて時間どおり出来上がりやれやれでした。

東北に支援にいったときの話になるのですが、私たちは石巻の女子高等学校で炊出しを行っていました。炊出しをしていると、近所の人たちが炊出しをもらおうと鍋を持って集まってこられました。そのときは、石巻の女子高等学校に避難してきた人の分しか作ってなくてどうするか本当に悩みました。その時会長が「食事がパンやおにぎりばかりで、炊出しの香りがしたら集まってくるのは当たり前だ。ほっとけない。」といて、追加で100食をすぐに炊いて、皆さんに温かい食事を提供しました。日頃の訓練の成果です。

また、避難している子供たちにカレーを作ることになったのですが、その時は豚汁の材料しか香川県から持ってきていない状況でした。そこで、豚肉・人参・里芋は豚汁の材料から、玉ねぎは避難所の支援物資から、カレールーは30キロ離れたお店から購入して、材料をかき集めてカレーを作りました。ジャガイモがなかったので、豚汁用の里芋を代わりに入れたところ、カレーを食べたおばあちゃんから「四国はカレーに里芋を入れるんですね」と言われたことは、心に残っています。被災地で支援を行っている、想定していないことがたくさん起きるので、材料がないからできないのではなく、他の材料で代用するなど応用を利かすということが重要であると考えており、日頃の防災活動でも心掛けています。

#### 【岩本氏 三豊市消防団女性部】

今のお話聞いて、会長の優しさというか被災者への心配りっていうのがすごくよくわかりました。

私も東日本大震災の際に職場の方から、益城町での災害支援ということで、震災約1カ月後に、1週間程現地で活動させていただきました。私は福祉施設で支援活動を行っていたのですが、災害支援に来た方の支援をしてくださる地域の方がいました。香川県に戻ってきた後で、災害があった時の対応だけでなく、災害ボランティアに来てくださった人達の支援もとても大切ということに、身をもって気づかされました。今後香川県で災害が起きた時に、災害ボランティアで来ていただいた方たちが、災害が収まって復興した後、香川県に行きたいなと思っていただけるような取り組みもしていかなければならないと感じました。

また、福祉施設で1週間支援させていただいた中で、支援物資としておにぎりやパン

はたくさんあります。しかし、高齢者の中には、毎日毎日冷たい弁当が苦手な方もいらっしゃいました。その方に、「何が食べたいか」と聞くと、「だご汁が食べたい」と言われました。だご汁というのは、香川県でいう団子汁みたいな料理です。そこで、病院に許可をもらって、行政や地域の方と協力して食材を集めて、高齢者の方と一緒に料理を作って食べた経験があります。その時、だご汁を食べた皆様がすごく喜んでいました。「温かい食事がこんなにも心を安らかにするんだね」と言っていた時は、本当に活動してよかったなと思いました。

一つ岩崎会長にお聞きしたいのですが、岩崎会長は丸亀市で地域の自主防災連合会を立ち上げて長いと思います。実際、三豊市でも自主防災会を立ち上げようとする話はたくさん聞くのですが、なかなか進まないのはなぜかということと、今まで自主防災活動を継続して続けられたのはなぜか、お聞きしたいと思います。

### 【岩崎会長】

地元の小学校と地元の企業と一緒に防災活動に取り組んでいくことが、非常に大事なポイントです。地元の小学校の子どもたちと末永く、防災訓練やまち歩きを行い、いろんな関係を作っていくことで、地域の防災力がじわじわと広がってきます。小学生と一緒に防災活動をすると、子どもたちが家に帰って情報を家族に発信してくれます。それが、年数はかかるけれども、3～5年ぐらいうると地域防災力としての効果がでてきます。この裾野づくりは、防災でなくても町おこしでも構わないので、小学校と協力して行っていくことが重要だと思います。

それと、やはり企業が大事です。地域には、小さい商店から、従業員が100人もいる会社もあると思いますが、企業に訪問して、一緒になって色々活動しませんかと相手にボールを投げるのが重要です。今の企業は、社会貢献活動をしなければならないという、大命題が企業としてありますので、ボールを投げることで企業としてもちょうど良いきっかけになります。企業に訪問して、「会社の従業員や家族を含めた皆さんの災害時の備蓄を一緒にやりたい。それに力を貸してくれませんか。」と持ち掛けたら、大抵の企業は協力してくれます。そして、一緒に地域の活動の中で防災活動を行うのが重要です。自主防災活動に企業が入ることで、地域の方も、企業から資金をいただいている以上、中途半端な活動ができないということで、防災活動の継続につながります。私たちの地区でも、毎年事業計画を立てて年度初め皆さんの了解を得て、活動を行っています。企業とのバックヤードをしっかりと作って小学校と共同で防災活動を行っていくことで、自分たちだけで防災活動から脱落ができない形に環境を作っていくことが大事だと思います。

環境づくりの観点からも地域の小学校や中学校、特に小学校と連携して防災活動をしていくのが一番です。防災活動を続けていくことで、校長先生が変わっても、学校の中に防災文化が出てきます。いろいろな小学校へ防災訓練の指導に行っていますが、防災活動を継続して行っている小学校の子どもたちは、こちらが指示しなくても、自然にグループになったり動けたりできており、これが学校の防災文化なのかと初めて感じました。

また、中学校や高等学校にも防災訓練の指導に行っていますが、生徒の中にすごくテキパキ行動される生徒がいます。その生徒に出身を聞くと、自分たちの地区の出身と回答が返ってくるので、小学校との防災活動の連携というのは地域の防災活動を長続きさせる上で大事だなと感じています。

**【藪根氏 香川県危機管理課】**

補足すると防災の取組を、小学校や企業などに働きかける際には、小学校は小学校、企業は企業という別々の視点で見がちです。しかし会長がおっしゃったとおり、実際に地域の中では小学校や企業などはつながっており、そういった裾野の広い組織と自主防災組織で地域の防災活動を下支えするような取組を地道に行うことが大事なところだと思います。

**【岩崎シゲ子氏 川西地区自主防災会女性部】**

私は、子供たちに防災訓練をするときは、すごく褒めるようにしています。子供が訓練をうまくできたら、「すごい、100点満点」といってすごく褒めると、子どもたちは目を輝かせてすごく喜びます。そしたら、周りの子どもたちも必死になって訓練の説明を聞いて、私たちに見せてくれるんです。だから、私たちは防災訓練をするときは、褒めて頭の中に入れてもらうことをモットーとしています。

あと、会長は地域の人や部員とのコミュニケーションを大事にしています。防災活動だけでなく、森林公園の整備などの地域の活動で人が集まるときには、炊出しをして、皆さんと一緒にご飯を食べ親睦を深めています。会長は常に食を持ってコミュニケーションを図っています。

**【岩本氏 三豊市消防団女性部】**

その炊出しの費用がどのように捻出していますか。

**【岩崎会長】**

企業との連携がうまくいき始めたら、経済的な心配はほとんどなくなります。具体的にこんなことがやりたいので応援をお願いしたいと、企業に話をもっていけば、多くの企業は分かってくれます。

**【岩崎シゲ子氏 川西地区自主防災会女性部】**

会長の言われたとおり、防災活動が軌道にのって、企業がその動きを認めてくれれば、経済的な心配はほとんどなくなりましたが、軌道に乗るまではみんなで材料を出し合いました。炊出しをするときも、農家をしている人が白菜や大根を、私も家から味噌や醤油を持ち寄って訓練をしていました。また、応急救護訓練で使う三角巾や紐も、家にあるシーツや風呂敷を集めて作成したり、ストックングを紐代わりに使用したりしていました。防災活動を始めて10年ぐらいたち、活動が企業に認められ支援していただける

ようになった頃に、三角巾を訓練で 300 枚ほど必要となった時に会長から「布を買って作ったらいい」と言われたときは本当に嬉しかったです。

**【岩崎会長】**

では、藪根補佐の方から県としての女性参加の取組についてお願いします。

**【藪根氏 香川県危機管理課】**

香川県としても、防災活動への女性の参画はすごく大事なことでと考えています。香川県では防災の大きな計画を作っていく場所として防災会議を設置しています。その防災会議の中に女性の意見を取り入れるために、防災会議の委員に女性の参画を積極的に取り組んでいまして、関係団体を回って、女性の参画についてお願いしています。現状としては、令和 5 年 10 月 1 日時点で委員 60 名の内、11 名が女性です。今後も、女性の参画に積極的に取り組んでいきたいと思っています。

また、自主防災組織への働きかけについては、自主防災組織のリーダーを育成する研修会を行っており、その中で県の方から自主防災活動への女性参画の重要性について、お話をさせてもらっています。

本日の座談会の中でもたくさんの視点が出てきましたが、刻々と変化する現場対応において応用力を持って業務に対応できるかという点が、女性参画が必要な理由だと感じます。思いやりや気づきには、多様な人たちの視点や想像力がないと取組はできません。県としても、避難所生活でのトイレの問題や、温かい食事の提供については取組みの重要性を感じております。パンやアルファ米などの備蓄を県と市町で連携して取り組んでおり、災害時の応援協定に基づき企業からも物資を提供してもらえよう体制を取っています。しかし、一番大事な心の通った対応となるためには、関係者の皆様方の連携が大事になってきますので、防災は地域の底力をいかに発揮できるかにかかっていると思います。

行政の観点からも、横断的な各部局の連携がすごく大事ではないかと思っています。私は、危機管理部局ではありますが、防災・減災対策には危機管理部局だけでなく農政水産部や土木部、商工労働部と連携していくことが重要です。最近よく言われていることですが、高層マンションや新興住宅などが建ち、外から入ってくる人も多くなると地域での顔の見える関係が作りにくく、地域の繋がりが生まれにくい状況があります。そこに、防災という観点からのアプローチがあると、何かあった時に助け合うという共助の考え方から地域の繋がりができ、自主防災組織の活性化、ひいては自治会の活性化につながってくるのではないかと考えています。そういった意味で、今回集まっていたいております、DWAT や消防団、日赤などの関係者の皆さんが連携して取り組み、連携の輪を広げていくことが大事だと思います。その中に、行政も外側から見るのではなく、輪の中に入って一緒に取り組んでいくことがこれからは大事だと思っています。関係者の皆さんがつながる場の提供やそのきっかけづくりなどを来年度以降もしっかりやっていきたいと思っています。また、小学校や企業との関わり方について、これから力を入れて取り組んでいきたいと思っていますので関係者の皆様方のご協力をよろしくお願



いします。

**【岩崎会長】**

ありがとうございました。かがわ自主ぼう連絡協議会として来年は座談会に集まった皆さんと一緒に訓練等の活動ができたらと思っています。

以上で新春座談会は終了したいと思います。本日はありがとうございました。



## 丸亀市全コミュニティ組織（17地区）の防災訓練

丸亀市全コミュニティ組織（17地区）の防災訓練を実施。

コミュニティ協議会連合会を発足した折、記念行事ということで全コミュニティ合同防災訓練を実施することを理事会で承認。最初の10年は東日本震災記念の3月11日に実施してきました。

昨年からは阪神・淡路震災記念の1月17日に実施。昨年はコロナの影響があって、記念講演会のみ。本年から久しぶりにフルスペックの訓練を行ないましたが能登半島地震災害もあって、参加者全員気合いが入っていました。



### <訓練カリキュラム>

- ・ 訓練会場近かくの水路（地表から3メートル低く）から40人によるバケツリレーによる「生活用水確保訓練」寒い中で全員汗びっしょり1チーム1トンの水を確保。
- ・ 訓練会場周辺の山林遊歩道のアップダウンと階段道路を活用して被災者を車イスにて搬送。別のグループは毛布担架において、悪路の中を搬送。「実戦 被災者搬送訓練」参加者も神経をはりつめての訓練でした。
- ・ 被災現場を巡回点検。その状況を災対本部へ無線（簡易無線機）連絡。その現場に長時間建物の下敷きになっている住民を発見、ドクターヘリの要請が必要となった事象をアマチュア無線を使っての情報連絡する「簡易無線機とアマチュア無線連携による情報伝達訓練」の実施。
- ・ 「避難所設営訓練」ということで、ダンボール素材による部屋の間切り。ベッドの作成、男女の更衣室の作成、簡易トイレの作成などの実施。  
以上、充実した訓練を実施しました。この企画から準備工程、訓練物品の調達、訓練のアドバイ



ザー更に訓練終了後の後始末工程、すべて“かがわ自主ぼう”によって実施しました。

尚楽しみの「炊き出し食」は200人分の豚汁とお米15kgのごはんをすべてマキによって女性部の皆さんによって作られました。

## 大阪府貝塚市へ

3カ月ほど前に「防災対策と自治会加入」というテーマで講演を行なってほしいと要請を受け、大阪府貝塚市へ講師として伺いました。

令和6年1月20日（土）9.48 発岡山行き特急に乗車、新大阪まで新幹線、その後地下鉄御堂筋線に乗車、「なんば」駅に乗換、南海電鉄の関西空港行きの急行に乗車、12.52分貝塚駅に到着。市役所お迎かえの自動車に乗って講演会場に到着。

書けばいとも簡単になりますが、「なんば」駅での乗換え、一生けん命歩いて10分～13分、更に空港から急行電車満員状態、優先座席もすべて若人に占領され、40分間つり皮につかまってる乗車、私の年齢では大変苦痛でありました。東京や鹿児島での仕事は楽ですが今回はクタクタになりました。

## 「T・K・B」の内容分かりますか…？

能登半島地震災害のニュース番組「T・K・B」の内容分かりますか…？キャスターが問いかけておりましたの紹介したい。

**T…トイレ対策**      コンテナ式水洗トイレの設置

**K…キッチン・食事の対策**      暖かい汁を含めた食事の提供

**B…ベット・寝る環境**      プライバシー確保のうえダンボールベットの配備

相当な経費が伴いますが、行政と連携を密にして計画的な配備が求められます。

（文責：岩崎正朔）

## 編集後記

2月の防災減災の輪は、新春会談後編を掲載させていただきました。ありがとうございました。